

# 美桑が丘

校訓 『創造敬愛』

下川町立下川中学校  
令和7年度学校だより  
第11号 R8. 2. 27発行

## 卒業を前にして 今思うこと

校長 越 湖 憲 治

3年生の廊下に掲示されている「卒業カウントダウンカレンダー」が、ついに一桁を示しました。残りの日数が少なくなるたびに、子どもたちの表情や歩く姿に、卒業を目前に控えた特別な緊張感と期待が少しずつ表れてきています。3月12日には、本校第79回卒業証書授与式が挙行され、23名の生徒がそれぞれの夢や目標に向かって、共に過ごしてきた学び舎を巣立つこととなります。

今年の全校合唱曲は「群青」です。この曲は、東日本大震災で離れ離れになった友への想い、そして、もう一度ふるさとで再会したいという切なる願いを歌に綴ったものです。震災後、原発事故の影響で故郷へ戻ることさえ叶わない状況もあり、生徒たちは日常のすべてが不安定な中に置かれていました。その姿を見て、当時の2年生も心を痛め、歌うことができなくなるほどだったといえます。そうした想いの断片～卒業生たちが書いた日記や作文、友達同士の何気ない会話のひとつひとつに、音楽の先生が寄り添い、曲として形にしたのが「群青」です。歌詞にある「あたりまえが 幸せと知った」という一節は、私たちが日々の生活の中で見落としがち大切な気づきを静かに語りかけてくれます。

子どもたちにも朝会で話しましたが、卒業式の主役はもちろん3年生です。しかし、主役だけが輝く舞台では、式は単なる儀式として終わってしまいます。だからこそ、1・2年生という“脇役”の存在が欠かせません。脇役とは、起立・着席・座礼・拍手といった動作を丁寧に行い、式を支える大切な役割です。必要以上に目立つことはありませんが、その振る舞いが式全体の空気を静かに、しかし確かに支えます。一方で、合唱の場面では全く異なるステージが広がります。この瞬間だけは、全員がそれぞれの想いを抱えた“主役”になります。3年生は、合唱を通して自らが身につけた表現力や仲間との絆を示し、1・2年生にとっての道標となります。受け継ぐ側の1・2年生は、歌声や姿勢、表情を通して「次年度の学校を担うにふさわしい集団であること」を証明します。

3階の廊下を歩いていると、子どもたちの歌声や練習の様子から、卒業式に向かう気持ちが日に日に高まっているのを感じます。主役を務めるその日まで子どもたちは一步一步、確かに成長しています。

「2月は逃げる」と言われるように、本当にあっという間に過ぎ去っていきました。毎日変化し、たくましくなっていく子どもたちの姿を見守りながら、残された時間を大切にカウントダウンしていきたいと思えます。そして、3年生それぞれの心にしっかりと刻まれる、温かく思い出深い卒業式を迎えられますことを心より願い、ご挨拶とさせていただきます。

### ■受賞おめでとうございます

- 第63回全国中学校スキー大会  
スペシャルジャンプの部 第2位 竹本 祐那
- 北方領土中学生作文コンテスト  
佳作 小林 純太朗
- 第51回中学生インドア選手権大会  
第2位 黒川・大池ペア



### ■町への提言が実現！

2月14日(土)アイスクャンドルミュージアム初日に、まちづくり発表会でのアイデアを実際の形にしたのが、3年生の島山果愛奈さんと武石桃佳さんです。2人は「雪だるまカフェ」と題してココア販売に挑戦し、家族や地域の方の協力を得て見事に开店を実現しました。

当日は、3年生の中村山太さんがボランティアとして準備を手伝い、来店者の笑顔が広がる、素敵なお店づくりができていました。



## ■性に関する授業

1月27日(火)、中学3年生では「命を大切にするために」をテーマに、外部講師として、子育て・親育ての会代表の吉田征子先生をお招きし、講演を行っていました。吉田先生は、助産師として長年勤務された経験を持ち、現在は「命」をテーマに講演活動を行っている方で、昨年9月にも1、2年生に講演していただいております。

講演では、思春期の心身の変化や性的同意、ジェンダー、性感染症、避妊など、思春期に正しく理解しておくべき内容について、分かりやすくお話しいただきました。生徒たちは自分と相手を大切にすることの意味について考えを深め、命と向き合う貴重な時間となりました。



## ■第63回全国中学校スキー大会

1月28日(水)、冬季中体連全国大会に向けた壮行会を行いました。長野県・野沢温泉シャンツェで開催される「第63回全国中学校スキー大会」に本校から出場する、2年生の竹本祐那さんが、学校の代表として大会に臨む決意を力強く述べてくれました。竹本さんは、これまでの練習の成果を発揮し、全力で競技に臨むことを誓い、全校生徒から温かい激励の拍手が送られました。



2月4日(水)、第63回全国中学校スキー大会に出場した竹本さんは、第2位に輝きました。おめでとうございます。

## ■3年生社会科「租税教室」

1月28日(水)、上川総合振興局名寄道税事務所より、保田浩貴さん、高橋奈緒さんをお招きし、租税教室を実施しました。クイズや動画を取り入れた分かりやすい説明を通して、「税金を納めることの大切さ」や、税金が私たちの生活を支えていることについて理解を深めることができました。



## ■3年生家庭科「ふれあい体験」

2月4日(水)、3年生は家庭科の学習の一環として、下川町認定こども園「こどものもり」において「ふれあい体験」を実施しました。事前に家庭科の授業で手作りしたおもちゃや小道具を用いながら、やさしく声をかけ、相手の立場に立って関わろうとする生徒の姿が多く見られました。初めは緊張した様子の生徒もいましたが、次第に笑顔が増え、幼児の小さな反応一つ一つに喜びや驚きを感じている様子が印象的でした。

短い時間ではありましたが、生徒たちにとって命や成長、人との関わりについて考える、かけがえのない体験となりました。生徒たちからは、「幼児にわかりやすく話すことの難しさを感じた」「おもちゃで楽しそうに遊んでくれてうれしかった」などの感想が聞かれました。

ご協力いただいた下川町認定こども園「こどものもり」の皆様へ、心より感謝申し上げます。



## ■1・2年スキー学習 in 名寄ピヤシリスキー場

2月5日(木)、名寄ピヤシリスキー場にて、1・2年生合同のスキー学習を実施しました。当日は天候にも恵まれ、生徒たちは冬の自然を感じながら、意欲的に学習に取り組むことができました。

今回のスキー学習では、「基本的な技能を身につけ、滑る楽しさを味わうこと」「自分の課題を見つけ、改善を図ること」「スキー場での安全やマナーを守ること」をねらいとして活動しました。下川スキー場での事前学習を生かし、技能レベルに応じてグループ分けを行い、それぞれのペースで練習を進めました。

生徒たちは、プルークボーゲンからシュテムターン、パラレルターンまで、自分の技能に合った斜面に挑戦し、繰り返し滑る中で着実に上達する様子が見られました。また、リフトの安全な利用や、他の利用者への配慮など、公共の場でのマナーについても実践的に学ぶ機会となりました。

昼食時には、仲間とともに温かい食事をとりながら交流を深め、学年を越えた関わりも見られました。けがや大きな事故もなく、無事に全日程を終えることができたのは、生徒一人一人が安全意識をもって行動できた成果です。

今回のスキー学習で得た経験を、今後の学校生活やさまざまな活動に生かしてほしいと思います。



## ■6年生1日中学校生活体験

2月13日(金)、令和8年度に新入生となる6年生を迎えて、「1日中学校生活体験」を実施しました。

### 【中学校生活を「見て・感じて・見通す」】

1時間目には6年生は、中学2年生による「学校生活紹介」に参加しました。中学生による行事紹介、部活動紹介、生活ルールの説明などを通して、これから始まる中学校生活へのイメージを少しずつ具体的に作る時間となりました。続いて2時間目には、国語・数学・英語などの授業参観を行い、実際に中学校の授業の雰囲気を感じてもらいました。



### 【中学生と共に活動する】

3時間目には、中学1年生との合同体育を実施しました。チームで力を合わせて取り組むミニバレーボールでは、体力や経験の違いに配慮したルール設定のもと、6年生も意欲的に参加し、笑顔あふれる活動となりました。4時間目には、3年生との合同音楽で校歌の練習を行いました。中学生の伸びやかな歌声に刺激を受けながら一緒に歌うことで、6年生は「この学校の一員になる」という実感をより強くもつことができたようです。

今回の合同体育と合同音楽は、小・中学校の教職員が児童生徒のより良い交流と成長につながるよう、事前に協議・打合せを重ねて授業づくりを行ったものです。

### 【わくわくの部活動体験】

午後は テニス部・吹奏楽部の2つの部活動を、前半・後半に分かれてどちらも体験しました。中学生が丁寧に練習方法を指導し、6年生も真剣な表情で活動に参加していました。保護者の方々にも後半の時間帯で活動の様子をご覧いただきました。

### 【最後に】

今回の「1日中学校生活体験」は、施設分離型小中一貫校となってから初めての取組でした。6年生児童が中学生との交流を通して、中学校生活へのよりよい見通しをもてる機会となるよう、小中双方の教職員が準備や授業づくり、運営を協力して進め、児童生徒の成長を多角的に支えることを目指しました。

当日ご参加いただいた児童・保護者の皆様、そして準備・運営に携わったすべての先生方・生徒の皆さんに、心より感謝申し上げます。4月に新しい仲間を迎える日が、今からとても待ち遠しく感じられます。



## ■いじめ未然防止集会

2月17日(火)、全校生徒を対象に「いじめ未然防止集会」を実施しました。この取組は、6月・9月・12月に行った「いじめの種アンケート」の結果を踏まえ、生徒一人ひとりが日常の言動を振り返りながら、いじめを生まない学校づくりについて考えることを目的としています。

はじめに、生徒会書記局の生徒が、いじめの定義や本校の「いじめ撲滅宣言」を全校で確認しました。続いて、アンケート結果を示しながら、いじめにつながりやすい6つの「いじめの種」(自己顕示欲、怒り・衝動性、自己弁護、僻みや驕り、諦め、誤った見解)について理解を深めました。



その後は、書記局の生徒によるロールプレイをもとに、給食当番や教室での「ちょっとした行動」が誰かを傷つけてしまう場面を取り上げ、「無自覚の加害者」や「傍観者」にならないためにどう行動できるかを、縦割りグループで話し合いました。生徒たちは、「見ていただけ」「やらないだけ」と思っていた行動でも、相手にとってはつらい状況を生むことがあると気づき、自分ならどんな声をかけられるか、どんな支え方ができるかを真剣に考えていました。

集会の最後には、生徒一人ひとりが今日の気づきや明日からの行動を振り返り、改めて「思いやりのある学校づくり」へ意識を高めました。今回の学びを、日常の生活の中で実践し、全校生徒が安心して過ごせる下川中学校をこれからもみんなでつくっていきます。



## ■大学生との対話から、自分の未来を考える(1年)

2月17日(火)、1年生がキャリア教育の一環として、大学生との交流プログラム「カタリバ」を行いました。

4つのグループに分かれて対話活動を行い、生徒は事前に作成した「みらいスケッチ」を使いながら、自分の興味や将来の目標を大学生に伝えました。その後、大学生からは温かい助言や励ましが寄せられ、生徒にとって大きな刺激となりました。

これまでの活動では「25歳の理想の自分」を描く学習にも取り組みました。大学生から、中学生時代の悩みや進路選択、将来の夢についての体験談を聞き、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。そして、これまでの学びと自分の未来をつなげて考える貴重な時間となりました。今後も、地域や社会との関わりを大切に、生徒一人ひとりのキャリア形成を支えていきます。



## 【新入生保護者説明会】

2月13日(金)13時25分から14時30分にかけて、2階研修室にて新入生保護者説明会を行いました。生徒会書記局による学校紹介をはじめ、中学1・2年生による校歌披露、中学校生活に関する学習面・生活面の説明、諸経費や入学までの準備についての案内など、入学前にぜひ知っていただきたい内容を中心にお伝えしました。

また、名寄警察署生活安全課の方をお招きし、ネットトラブル防止に関する講話も実施しました。ご家庭で意識していただきたいポイントについて理解を深めていただく良い機会となりました。

お忙しい中ご参加いただいた保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

## 3月の予定

- 2日(月) 全校朝会、安全点検日、校内研修、栄養教諭来校日
- 3日(火) 特別支援学級交流会「卒業を祝う会」
- 4日(水) 公立高校一般入試学力検査
- 5日(木) 公立高校一般入試面接検査
- 11日(水) 同窓会入会式
- 12日(木) 卒業証書授与式
- 16日(月) 職員会議
- 17日(火) 職員会議、公立高校合格発表
- 25日(水) 修了式・離任式、職員会議

